



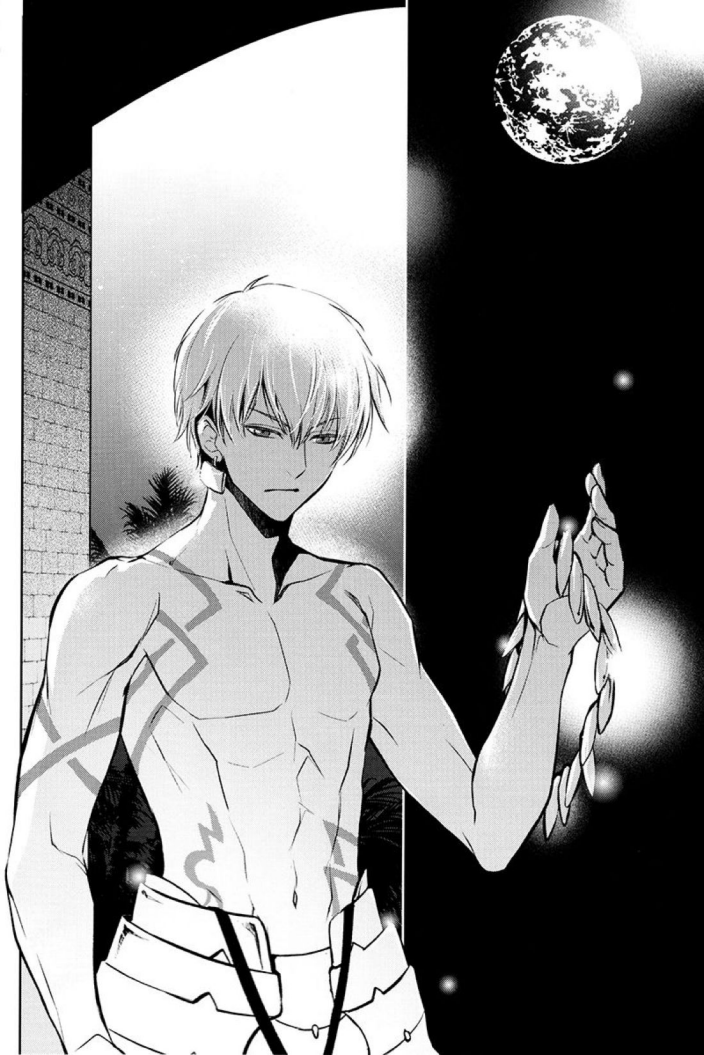
終わらない

宴
を

ADULT ONLY

Gilgamesh × Siduri

終わらない宴を



王の
金色の髪が――

月明かりに
照らされて

なんて
美しい……

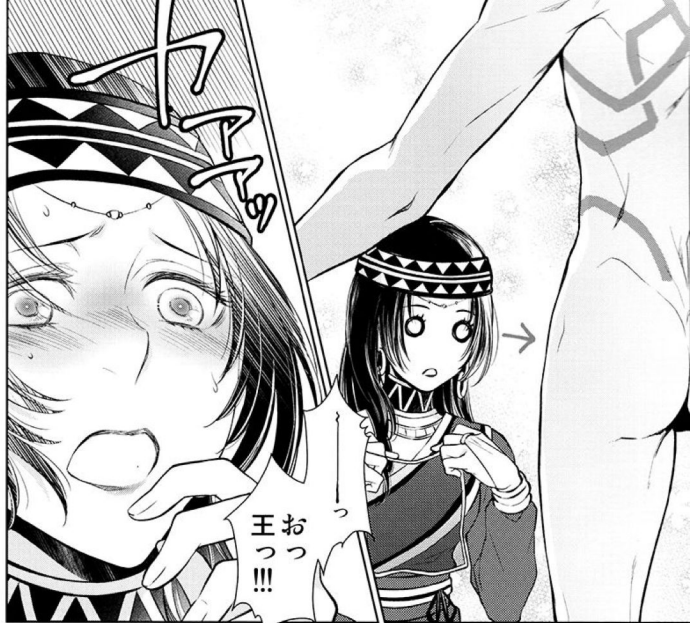
シドウリ

っ
はあっ
はっ

その身を
我に捧げるのでは
なかったのか

服を脱ぐ手が
止まっているぞ

もっ申し訳
ありません――



よく見ておけ
シドゥリ

これは私の
慈悲である

これが
貴様の^{なか}膺を
蹂躪せしモノ

見知らぬモノに
翻られるのは
恐ろしかろう


……はい

た、確かに
王の言う通りで
ございますね……


うむ!!!

心して
見るがいい

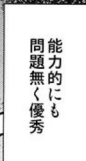
——ほう



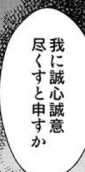
思った以上に
気丈な女だな



なるほど
いすれ祭祀長という
話もうなすける



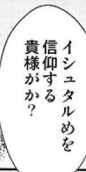
能力的にも
問題無く優秀




我に誠心誠意
尽くすと申すか



はい



イシユタルめを
信仰する
貴様がか？



はい
臣下として
当然の勤めで
ございます



まったくの
無能者でございます!!!

王にご満足
頂けるはずもなく!!!

まじめ

王の腹筋大崩壊

ふははははははははは!!!

お……王!?

かまわぬ
それもまた
一興

戯れのもりで
あったが
良いぞ

その身を我に
捧げるがいい

はは……

おかしな女だ

だが
その真っ直ぐな
あり方は

きまじめ

じいー

私の準備は
整ったぞ？

ニョキッ

あ…



もう
よいわ



貴様はまだ
服を着たままか

なるほど
無能者だな
シドゥリ

もっ申し訳
ありません



無能者はおとなしく
股を開いている

なかなかの
女っぷりだな
シドゥリ

はい

っ…あつ

これで男を
知らぬとは

よもや口づけも
未経験だとは
言うまいな？

は……
はいそれは

そうか？

…んっ

—
!!!

んっ



ああ……



あ……

ん……っ




なんて長い
睫毛



は……
初めてでした

であろうな!!!





存分に
楽しむがいい



処女が
楽しいのは



今だけだ

!!!

痛っ
いっ
っ……

さすがに
キツいな

暫く慣らさねば
入らぬ

…申しわ…っけ
あり…っん

腰を揺らすな
シドゥリ

感じている
わけでも
あるまい

ん……そうか
ぬかったな

ここならば
貴様も感じるで
あろう



気分はどうだ
シドゥリ

自分で勝るのは
また違った
味わいだろうか？

ぐち

それとも
自慰の経験も
ないか？

答えよ
シドゥリ

あ……りません

は
さすがの我も
驚いたぞ
女の喜びを
全く知らぬとはな

いつもすまし顔の
貴様が乱れる姿は
愉快極まりないわ







息をしていると
言っただろう

止めれば
体に力が入る
貴様の瞳も
キツくなる

いつまでたっても
我が挿れられぬ

!!!

な……るほど
わかり……ました

その調子だ
シドゥリ





ようやく全部
おさまったか

どうだ？
褥に花を散らした
気分は

さすがに
キツいな

声も出ぬか



まあよい

そのまま
ただ我を
感じているがいい

ああっつ!!!



王の頬が――

あ……

微かに
紅潮して……



なぜ
拝む？

シドゥリ



……しくて

王の頬が……
そのお姿が……
その……

聞こえぬ!!!



我が抱かれながら
神に助けを
求めるか？

ちっ違います!!!



お姉さん氣質



なるほど……な
感じるのが痛みのみでは
よけいな事を
考えもするか

そうかそうか
はははははは

あ……の
王？

ならば
そんないとまを与えぬ程
貴様を女にすれば
いだけの話だな

そ……それは
一体……

我自ら
貴様が女の喜びに
むせび泣くよう
ほぐしてやろうと
言っているのだ

毎晩な

あつっ……!!!

ま……いばん……？

あ……

感謝しろ
シドウリ

え……？



ん……ああつ

あッッ

アッ
アッ



夜はまだ
これからだ



貴様もすぐに
泣いてすがって
我を欲しがるようになる



今宵は
朝までじっくり
我の色に染めてやろう

存分に
味わうがいい
シドゥリ

宴は
終わらぬ

幕間



一ヶ月ほど後

ああ……

王の金の髪が
陽の光に
煌めいて――

なんて美しい――

それにこうして
お休みになられている
お姿は無防備で……

いつもの
猛々しさは
感じられない

なんとも
お可愛らしい

……ん

お目覚めですか
王？



ふにふに

我を見下ろすとは
不敬である

ぎぎっ!!!



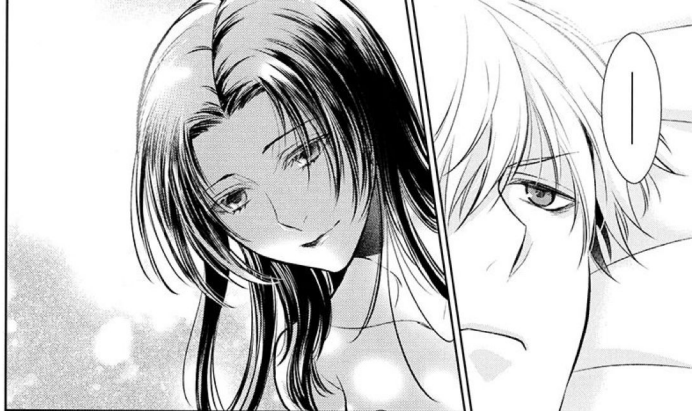
私は心からの賛辞を
王に捧げているのです



それにその顔
また良からぬ事を
考えていたな?

さすが王
ご推察の通りです

否定せぬか
このほか者め



—



—
許す



……王？

我を見下ろすのを
許すと言ったのだ

そろそろ貴様も
我に奉仕せよ

そ……これは
その……

なんだ？
嫌だと申すか？

いいえ

王のご所望が
騎乗位か上の口か
判断に迷いました

こやつ
知識を貯えて
おったのか!!!

勉強家

まず口で奉仕させて
頂いてから

見下ろす体勢に
移行したいと
思いますが
いかがでしょうか

う……うむ

よいぞ

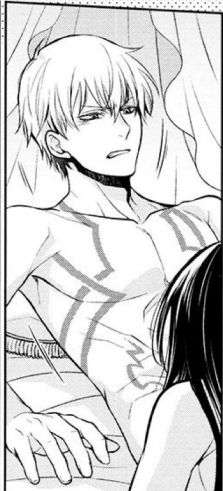
では
失礼します



こやつ相当の鍛錬を積んだな!!!



がまん



いかで
ございましょう
王

初めてとは
思えぬ舌使い

ん？
貴様よもや
他の男のモノを
くわえ込んで
その技を
身につけたのでは
あるまいな？

そのようなこと
ありえませぬ

な……かなか
やるではないか

この身は王に捧げ
お仕えしている
最中です

王を裏切る
行いなど
いたしません

ならば
知識のみで
ここまでの技を
身に付けたと？
解せぬな

手も上手

い……いえ
それは
その……



シドゥリ
そうではなく!!!

まっ
待て



今ここに
張り子は
ありませんので

カクカクカクカク
カクカクカクカク



!!!



カクカク

カクカク



飲みおった!!!

カクカクカクカク

やりました
先輩方!!!

口でイかせられたら
一人前よ♡

カクカク

それでは王

恐れながら
見下ろさせて
頂きます

ぎん

ああ……

ぎん
ぎん
ぎん

王の美しいお姿が
よく見えます

な…っ

降りろ
シドゥリ

我が動く

シッ
シドゥリ
よさぬか

うっ

うおっ

なんだと!?

初めて王から
主導権が奪われた
記念日

幕間

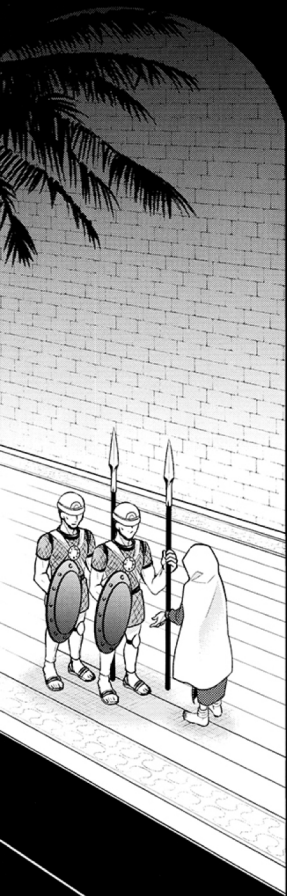



練習風景



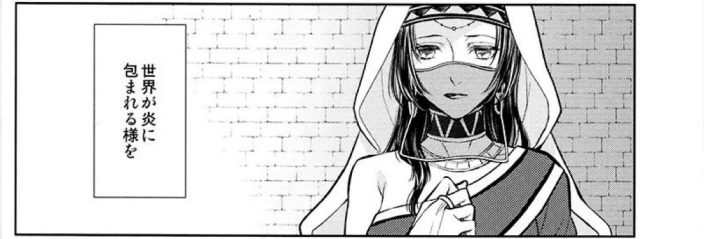
間抜けではなくエロかった

カルデア一行が
訪れる数ヶ月前






王は千里眼で
見たという



世界が炎に
包まれる様を



その言葉通り
突如現れた
「三女神同盟」によって
多くの都市は滅ぼされた

王はパピロン市を
解体し、ウルク北壁
とも言える大城塞の
建造を押し進め

私たちが鼓舞し
導いて下さる



王、
今宵はもう
お休み下さい

半神である
その身を
容赦なく削り
奇跡をなす

疲労、心労は
計り知れない



もう何日も
お眠りになって
おられない
このままでは……

他の者は
すべて下がらせ
ました故
どうか――



そうだな
確かに
いささか疲れた

休むとするか

木
…





貴様の^{なか}膾に果てれば
心置きなく
眠れるというもの



ではことが
お済みに
なりましたら……

くどいぞ
シドゥリ

お約束
くださいませ

グッッ



それに貴様も
欲しいだろう？



グッッ!!
そうだ!!!

すつきりさつぱり
ぐつすりですね？

我が女にして
ほぐしてやった体

あ…

長い独り寝は
さぞ体を
持て余したであろう？

我が触れただけで
蜜があふれんばかり
ではないか

ん…っ

はしたないぞ
シドゥリ

王の望む体になつたので
ございます

確かにな
たいした忠義者だ

おト…

どうだ？
我とともに
王座に座る気分は

……んっ

っ……あっ

お……恐れ
お……です

はあ
はあ





貴様は
変わらぬな

あッ!!!

(お)

い……いいえ

王に
変えられて
しまいました……

ああ

まあ

あッ

あッ
あッ
あッ

私は……今
女である
喜びに……

打ち震えて
いるのですから……

そうか

え……

あああッつ!!!



あッ

う……っつ
つ……あッ

ああッ!!!

ああッ!!!



お……王……

グイッ

グイッ

グイッ



あぁ、
あぁ、
も……申し訳
ありま……せん……
もう……

よい
そのまま
眠るがいい

あぁ

あぁ

貴様
何日もうくに
寝ておらぬな

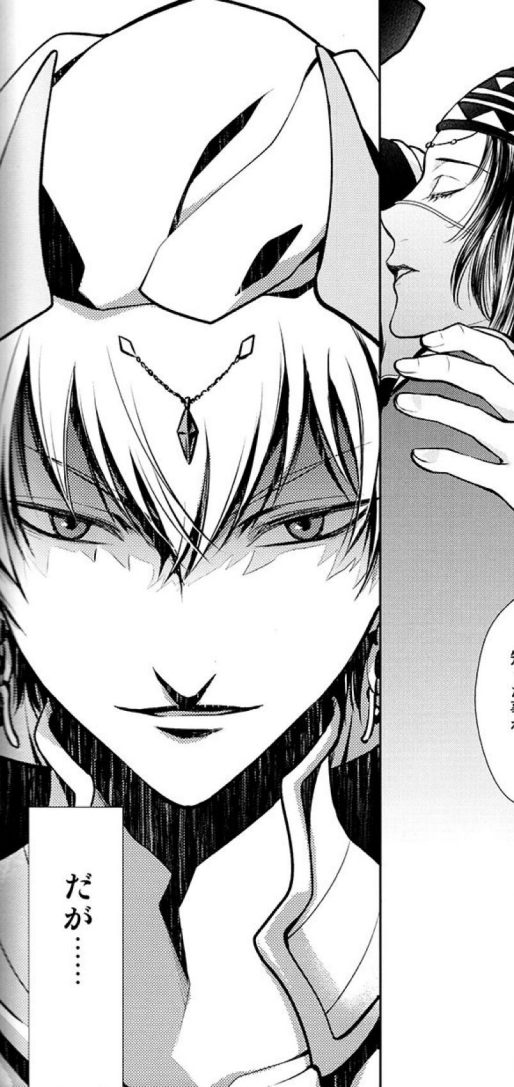
人の身で
我にならうか？
不遜であるぞ

は……

仰せの
通り……で……

この柔らかさも
温かさも

すべて
逃れる事のできない
灼熱に包まれる



我は裁定者
人ならざるもの――

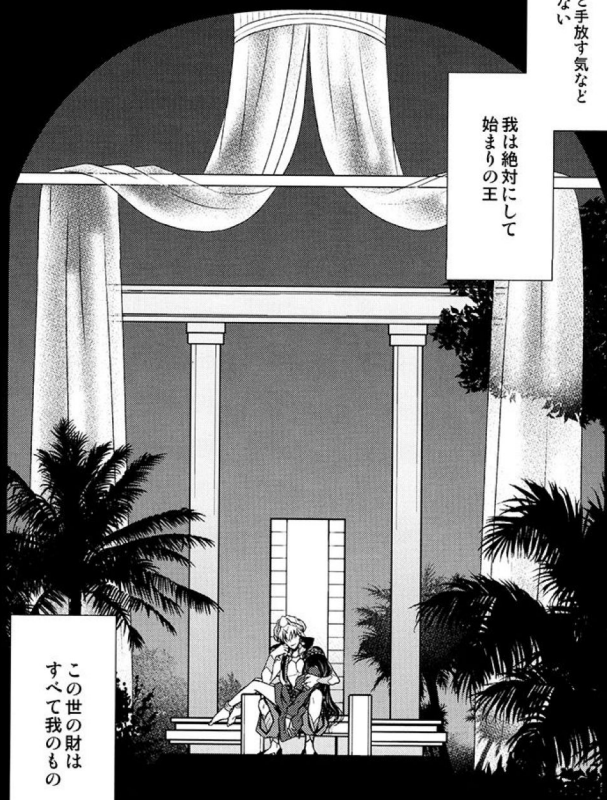
法
雑種共が
どうなろうと
知った事か

だが……

易々と手放す気など
毛頭ない

我は絶対にして
始まりの王

この世の財は
すべて我のもの



国中の美女も
民もすべて

我のものだ

—

こんにちは！マミヤです
バビロニア……良かったですね……
シドゥリさんが連れ去られた後のキャスギルの反応が……もう
切ないけど萌えて萌えて萌えました……！！
主従はいい、いい！いい！
で、さっそくいそいそとエロ本です。
「ギルガメ、F/Zで人目をばからず英雄王の処女ぶち抜くって言ってた！！言ってた！！
もちろんシドゥリさんのもぶち抜くよね！ぶち抜いて頂け！！」
「……あれ、英雄王じゃない騎士王だよ！英雄王だとセルフだよ！！」
とか考えて頭を抱えていました……
軽率にいろいろ間違える……萌えのまま、勢いに任せて描いたので
ま、間違いがあったらすみません
ギルガメッシュが放浪から帰還した時の話も描きたいけど
それはちょっとさすがにじっくり考えてからと思っています
読んで頂いてありがとうございました！

終わらない宴を

Gilgamesh × Siduri

Fate/Grand Order
unofficial fanbook no.02
MAMIYA[RIX] PRESENTS
2017.3.20
WEB ; <http://rix.vv.cx>
MAIL ; m@rix.vv.cx
PIXIV ID = 464880
print ; SUNGROUP CO.,LTD.



※18歳未満の閲覧厳禁
※無断転載、複製、転用、WEBへのアップロード
ネットオークション、フリマアプリ等の出品厳禁
※本文の無断違法公開を見つけた際は相応の対応を行います
当同人誌は18歳未満、同人誌に理解の無い方の手に渡ぬよう
所有者が所持、廃棄に責任を負って下さい



終わらない宴を

Gilgamesh
×
Siduri

Fate/Grand Order
unoffical fanbook no.2
MAMIYA [RIX] PRESENTS
2017.3.20

R
I
X